

3.5 シナリオ（山田断層帯）

(1) 京都市域の概要

- ・京都市内の最大震度は5弱。桂川など河川沿いで揺れが大きい。
- ・帰宅する通勤・通学者が多い夕方18時に発生した地震により、京都駅をはじめとする市内各所で帰宅困難者が発生する。公共交通機関と連携し、運行状況の情報を提供するとともに、代替輸送を確保する。
- ・医療機関では、被害の大きい地域から、負傷者及び救助者を受け入れる。
- ・24時間以内に最低限必要な飲料水は400リットル。備蓄物資で賄うことができる。要請に応じて、不足する市町村の応援に充当するが、支援先の物流機能の停止により供給が遅れる。
- ・被害の大きい市町村の復旧活動が本格化する。物資や医薬品の供給、災害廃棄物の受入等の支援を拡大する。

(2) 山城広域振興局地域の概要

- ・管内の最大震度は5弱。宇治川など河川沿いで揺れが大きい。
- ・鉄道の停止に伴い、帰宅困難者が発生。公共交通機関と連携し、運行状況の情報を提供するとともに、代替輸送を確保する。
- ・医療機関では、被害の大きい地域から、負傷者及び救助者を受け入れる。
- ・24時間以内に最低限必要な飲料水は70リットル。備蓄物資で賄うことができる。要請に応じて、不足する市町村の応援に充当するが、支援先の物流機能の停止により供給が遅れる。
- ・被害の大きい市町村の復旧活動が本格化する。物資や医薬品の供給、災害廃棄物の受入等の支援を拡大する。

(3) 南丹広域振興局地域の概要

- ・管内の最大震度は5強。河川沿いで揺れが大きい。
- ・主要駅は、帰宅困難者で混雑する。公共交通機関と連携し、運行状況の情報を提供するとともに、代替輸送を確保する。また、市町と連携し一次退避場所を開設し誘導する。
- ・一部で出火するが、初期消火により延焼を防止。
- ・山間部では土砂災害（がけ崩れ）が発生し、全壊約30棟、半壊約70棟の被害が発生する。
- ・土砂災害による建物の破損により若干名の死者、負傷者が発生する。
- ・医療機関では、被害の大きい地域から、負傷者及び救助者を受け入れる。
- ・地震発生直後、自宅の損壊等により若干名の避難者（避難所以外を含む全避難者）が発生。
- ・24時間以内に最低限必要な飲料水は200リットル。備蓄物資で賄うことができる。要請に応じて、不足する市町村の応援に充当するが、支援先の物流機能の停止により供給が遅れる。
- ・被害の大きい市町村の復旧活動が本格化する。物資や医薬品の供給、災害廃棄物の受入等の支援を拡大する。

(4) 中丹広域振興局地域の概要

- ・管内の最大震度は6強。由良川等の河川沿いや舞鶴港沿岸部で大きな揺れを観測する。
- ・福知山駅をはじめとする各駅では帰宅困難者で混雑する。公共交通機関と連携し、運行状況の情報を提供するとともに、代替輸送を確保する。また、市と連携し一時退避場所を開設し誘導

する。混乱が長時間に及ぶため、一時滞在施設も開設する。

- ・揺れの大きい福知山市や綾部市の市街地で出火・延焼が発生し、約 20 棟が焼失する。
- ・由良川等の河川沿いや舞鶴港沿岸部で液状化が発生する。山間部では土砂災害（がけ崩れ）が発生し、揺れによる被害も含めて、全壊約 1,100 棟、半壊約 7,000 棟の被害が発生する。
- ・建物の倒壊や火災により約 30 人の死者、約 300 人の負傷者が発生する。要救助者は約 80 人発生する。冬 18 時以降の暗がりがさらに活動を妨げる。
- ・負傷者が災害拠点病院に搬送され、医療現場が混乱する。医療機関では、押し寄せる負傷者等の受入の他、入院患者のケアも必要となる。
- ・地震発生直後、自宅の損壊等により約 1,800 人の避難者（避難所以外を含む全避難者）が発生。上水道、下水道、電気、通信、ガスが停止し、自宅の損傷がなくとも生活が困難となり、避難所に押し寄せる他、車中泊避難者も増加する。
- ・24 時間以内に最低限必要な食料は 3,400 食、飲料水は 45,000 リットル、毛布は 1,400 枚。冬季のため防寒の物資が必要となり、近隣の市町村や府県からの支援を要請するが、物流機能の停止により支援が遅れる。
- ・ライフラインの復旧に伴い、住居が無事な避難者は自宅に戻る。一方、住居を喪失した避難者は避難所生活を継続する。応急仮設住宅の建設、公営住宅の活用等により住宅を供給する。

(5) 丹後広域振興局地域の概要

- ・竹野川や野田川沿いを中心に最大震度 7 の揺れを観測し、同エリアで甚大な被害が発生する。京都縦貫自動車道や国道 176 号線等の被害により、物流機能が低下する。関係機関の出先事務所では、建物の一部が被災するとともに、執務室内では固定されていないキャビネット類や OA 機器類が転倒・散乱する。職員の負傷が発生し、地震発生による混乱と人員不足により、各機関の機能が低下する。
- ・帰宅する通勤・通学者が多い夕方 18 時に発生した地震により、主要駅では帰宅困難者で著しく混雑する。鉄道だけでなく、溢れた帰宅困難者がバスやタクシーに流れ、同様に混雑する。公共交通機関と連携し、運行状況の情報を提供するとともに、市町と連携し一時退避場所を開設し誘導する。混乱が長時間に及ぶため、一時滞在施設も開設する。
- ・一部地域で出火。1,100 棟が焼失する。
- ・市街地を中心とした大きな揺れ、川沿いの液状化、山間部で発生する土砂災害（がけ崩れ）により、全壊約 36,000 棟、半壊約 25,000 棟の被害が発生する。
- ・建物の倒壊や火災により約 400 人の死者、約 1,600 人の負傷者が発生する。約 3,300 人の要救助者が発生し、消防局や消防団等が救助活動に当たる。所轄施設等ではエレベータが停止し、利用者が中に閉じ込められる。
- ・負傷者及び救助者が災害拠点病院に搬送される。医療機関では、負傷者等の受入の他、入院患者のケアも必要となる。
- ・地震発生直後、自宅の損壊等により約 32,000 人の避難者（避難所以外を含む全避難者）が発生。上水道、下水道が停止し、自宅の損傷がなくとも生活が困難となり、避難所に押し寄せる他、車中泊も増加する。
- ・24 時間以内に最低限必要な食料は 62,000 食、飲料水は 87,000 リットル、毛布は 26,000 枚。冬季のため防寒の物資が必要となり、近隣の市町村や府県からの支援を要請。

- ・山間部で発生する土砂災害（がけ崩れ）により道路が寸断され、孤立化集落が多数発生する。負傷者の搬送、物資の供給が難航する。
- ・ライフラインの復旧に伴い、住居が無事な避難者は自宅に戻る。一方、住居を喪失した避難者は避難所生活を継続する。応急仮設住宅の建設、公営住宅の活用等により住宅を供給する。
- ・文化財は、建造物だけでなく、転倒等による美術工芸品の破損等が発生する。搬出、応急措置を施し、生活基盤が安定した後、修復の検討に入る。

表 3.5-1 山田断層帯における京都市域のシナリオ (1/2)

【京都市域】(冬、夕方(18時))		災害直後～災害拡大期		災害沈静期		復旧期	
被害項目	被害想定	地震発生～1日後	～3日後	～1週間後	～1ヶ月後	～3ヶ月後	
災害	最大震度:5弱 全壊:＊ 半壊:＊	● 山地部で土砂災害の発生箇所が点在 ● 建物被害はほとんど発生しない					
建物							
火災	焼失棟数:0棟 死者:0人 負傷者:0人 要救助者:0人	● 出火は発生しない ● 入的被害は発生しない					
人的							
電力	停電軒数(停電率): 【被災直後】 0軒(0.0%)	● 停電は発生しない 【1日後】 0軒(0.0%)		● 一部で停水継続 △ 应急給水活動を開始 ● 管路等の被害による断水が発生 △ 施設の被害状況を把握	【4日後】 0軒(0.0%) ● 被害を受けた管路の復旧が完了し、管路被害を原因とする断水は解消	【1週間後】 0軒(0.0%) ● 管路の復旧が進捗した地域から、段階的に断水が解消	【1ヶ月後】 0人(0%)
上水道	断水人口(断水率): 【被災直後】 400人(0.0%)	● 管路等の被災により、下水道の利用に支障が発生 △ 施設の被害状況を把握	【1日後】 400人(0.0%)		【1週間後】 0人(0%)	【1ヶ月後】 0人(0%)	
ライフライン	下水道 機能支障人口 (機能支撑率): 【被災直後】 200人(0.0%)	● 管路等の被災により、下水道の利用に支障が発生 △ 施設の被害状況を把握 ● 利用可能に 【1日後】 0人(0.0%)		● 通信・通信の制限はほとんど発生しない ● 不回線数(不通過率): 停波基地局率: 【被災直後】 * (0.0%) 0.0%	【4日後】 * (0.0%) 0.0%	【1週間後】 * (0.0%) 0.0%	【1ヶ月後】 0人(0%)
都市ガス	供給停止率:0.0%	● 供給継続					

※被害数量の「*」は、端数処理した折以下の値で、0ではないことを示します。

- :被害の様相
- ▲ :既の対応
- △ :市町村等関係機関の対応

表 3.5-2 山田断層帶における京都市域のシナリオ (2/2)

【京都市域】(冬、夕方(18時))		発災直後～災害拡大期		災害沈静期		～1週間後		復旧期		～3ヶ月後	
被害項目	被害想定										
道路交通(橋梁)	橋梁大被害 0箇所	● 山崩部の土砂災害により、一部地域で通行止め △緊急車両の通行確保等のための交通規制 ▶緊急輸送路の被害状況調査						● 橋脚の運行機関が回復			
鉄道	新幹線 0箇所 その他：*	● 鉄道は全面的に運行停止 ● 器具の大きい地域では橋脚や盤土の被害等が発生 △ 鉄道各社による点検・応急復旧作業				● 鉄道の一部で運行再開		● 橋脚運行再開			
文化財	文化財被害数 0件 文化財保有者数 0件	● 被害は発生しない									
避難所	避難者数	△混乱防止の広報									
【被災直後】						【1週間後】	*	【1ヶ月後】	*	【4ヶ月後】	*
		● 公共交通機関が停止、帰宅困難者が発生 △公共交通機関等の運航状況の情報提供 ▶代替輸送の調整									
		物資(備蓄品)必要量 飲料水、400リットル 毛布、*		△ 物資の搬運体制を整備 △ 物質・薬剤搬送拠点の明設		△ 備蓄している飲食料や生活必需品を不足市町村に提供					
		災害廃棄物発生量： 200t/日		△ 災害廃棄物の仮置場の設置準備を開始 △ 家庭ごみ・避難所ごみの収集・運搬 ▶ゴミ処理及び警戒業務の情報提供 ▶市町村間調整、広域的な支援要請		△ 災害廃棄物の仮置場を設置し、運営を開始 △ 災害廃棄物の収集・運搬の実施 ▶被災市町村からの災害廃棄物の受け入れ					
		消防	—	● 住民が初期消火を実施 △ 消防局・消防団による消火活動							
災害応急体制	救出 救護活動	● 道路閉塞による救出・救護活動の影響		● 電力・燃料不足による救出・救護活動の影響		△ 医薬品等を調達、搬送 △ 救護活動を展開 △ 振災市町村からの傷病者の受け入れ		● 被害の様相 ▶「倒」の対応 △ 市町村等間連携の対応			
医療開発	(医療機関、病院)	—									

※被害数量(*)は、端数処理した桁以下の値で、0でないことを示します。

表 3.5-3 山田断層帶における山城広域振興局地域のシナリオ (1/2)

【山城広域振興局地域】(冬、夕方(18時))		被害想定		発災直後～災害拡大期		～3日後		災害沈静期		～1ヶ月後		復旧期		(1/2)	
被害項目				●	山地部で土砂災害の発生箇所が点在										
災害		建物	最大震度：5弱		● 建物被害は発生しない										
		火災	犠牲者数：0人		● 出火は発生しない										
		人の	死者：0人 負傷者：0人 要救助者：0人		● 人的被害は発生しない										
		電力	停電軒数(停電率)： 【被災直後】 0軒(0.0%)		● 停電は発生しない										
		上下水道	断水人口(断水率)： 【被災直後】 70人(0.0%)		● 管路等の被害による断水が発生 ▶ 施設の被害状況を把握	【1日後】 0軒(0.0%)		● 一部で断水継続 ◆ 応急給水活動を開始	【4日後】 0軒(0.0%)	【1週間後】 0軒(0.0%)		◆ 断水状況に応じて応急給水活動を継続	● 被害を蒙った管路の復旧がほぼ完了し、 管路被害を原因とする断水が解消		
ライフライン		下水道	機能支障人口 (機能支障率)： 【被災直後】 50人(0.3%)		● 管路等の被害により下水道を利用に支障が発生 ▶ 施設の被害状況を把握 ◆ 淀下機能確保のための緊急工事 ● 利用可能に	【1日後】 70人(0.0%)		● 管路の復旧が進捗した 地域から、段階的に断水が解消	【1週間後】 0人(0.0%)	【1ヶ月後】 0人(0.0%)					
		通信	不通回線数(不通率)： 停波基地局率： 【被災直後】 0.0%		● 通話・通信の制限は発生しない										
		都市ガス	供給停止率：0.0%		● 供給継続										

※被害数量の「*」は、端数処理した際以下の値で、0ではないことを示します。

● : 被害の発生
△ : 未対応

◇ : 町村等関係機関の対応

表 3.5-4 山田断層帶における山城広域振興局地域のシナリオ (2/2)

【山城広域振興局地域】(冬、夕方(18時))		被害項目	被害想定	発災直後～災害拡大期	災害沈静期	～3日後	災害沈静期	～1週間後	復旧期	～3ヶ月後
道路交通 (橋梁)	新幹線 その他: 0箇所	鉄道	● 鉄道は全面的に運行停止 △ 鉄道各社による点検・点急復旧作業	● 山門部の土砂災害に起因する道路閉塞等により、一部地域で通行止め △ 緊急車両の通行権・保険等のための交通規制 △ 緊急輸送路の被害状況調査					● 横河通行機能が回復	
文化財	文化財被害数: 0件 文化財保有数: 0件		● 被害が発生しない					● 鉄道の一部で運行再開	● 横河通行再開	
避難所	【被災直後】 0人、 帰宅困難者数: 1,100人 外国人宿泊者数: 20人		● 避難者が発生しない △ 洪氾防止の広報			【1週間後】 0人				
物資	物資(備蓄品)必要量 飲料水: 701リットル 毛布: 0枚		△ 物資の調達体制を整備 △ 物資・集積搬送拠点の開設	△ 災害廃棄物の貯置場の設置準備を開始 △ 家庭ごみ・避難所ごみの収集・運搬 △ 処理方法の検討	△ 備蓄している飲食料や生活必需品を不足市町村に提供					
災害廃棄物	災害廃棄物発生量: 10トン			△ 災害廃棄物の貯置場の設置準備を開始 △ 災害廃棄物の収集・運搬 △ 災害廃棄物処理の情報提供 △ 災害廃棄物の搬出・輸送の検討 △ 市町村間調整・広域的な支援要請						
災害応急体制	消防 救出・救援活動	消防	—	△ 住民が初期消火を実施 △ 消防局・消防団による消火活動					△ 被災市町村からの災害廃棄物の受け入れ	
	医療関連 (医療機関・医師)	—		● 道路閉塞による救出・救護活動の影響						
				● 燃料不足による救出・救護活動の影響						
				△ 医薬品等を調達・搬送 △ 救護活動を展開 △ 被災市町村からの傷病者の受入					● 被害の様相	
									△ 市町村等関係機関の対応	

※被害数量の「-」は、端数処理した値以下での値で、0ではないことを示します。

表 3.5-5 山田断層帶における南丹広域振興局地域のシナリオ (1/2)

【南丹広域振興局地域】(冬、夕方(18時))		被害項目		被害想定	発災直後～災害拡大期	災害沈静期	復旧期
					～3日後	～1週間後	～3ヶ月後
災害	最大震度：5強			● 山地部では土砂災害による土砂堆積		◇ 災証明発行に伴う被災物被害査定調査を実施	
建物	全壊：30棟 半壊：70棟					◇ 被災建物の撤去	
火災	焼失棟数：*			● 出火はほとんど発生しない。			
人的	死者：* 負傷者：* 要救助者：0人			● 人的被害はほとんど発生しない			
電力	停電軒数(停電率)： 【被災直後】 0軒(0.0%)			● 停電は発生しない			
上水道	断水人口(断水率)： 【被災直後】 20人(0.1%)			● 管路等の被害による断水が発生 ▷ 施設の被害状況を把握	【1日後】 0軒(0.0%)	【4日後】 0軒(0.0%)	【1週間後】 0軒(0.0%)
ライフライン	機械支障人口 (機能支障率)： 下水道 【被災直後】 500人(0.4%)			● 管路等の被災により、下水道の利用に支障が発生 ▷ 施設の被害状況を把握	【1日後】 200人(0.1%)	【4日後】 0人(0.0%)	【1週間後】 0人(0.0%)
通信	不通回線数(不通率)： 【被災直後】 *0.0%			● 通話・通信の制限はほとんど発生しない			
都市ガス	供給停止率：0.0%			● 供給継続			

※被害数量の*は、端数処理した桁以下の値で、0ではないことを示します。

● 被害の様相
▷ 様の対応

◇ 市町村等関係機関の対応

表 3.5-6 山田断層帶における南丹広域振興局地域のシナリオ (2/2)

山田断層帶 【南丹広域振興局地域】(冬、夕方(18時))		被害想定	発災直後～災害拡大期	災害沈静期	復旧期
被災項目					
交通施設	道路 (橋梁)	橋梁大被害 0箇所	● 山間部の土砂災害により、一部地域で通行止め △ がが発生 △ 緊急車両面の通行状況調査 △ 緊急輸送路の被害状況調査	～3日後	～1週間後 ● 梱ね通行機能が回復
鉄道	新幹線:0箇所 その他:10箇所	● 鉄道は全面的に運行停止 ● 損傷の大きさによる点検、応急復旧作業	● 鉄道の一部で運行再開	～1ヶ月後 ● 梱ね通行車両	
文化財	文化財被害数:0件 文化財損失数:0件	● 被害は発生しない			
避難所	【被災直後】 * 帰宅困難者数: 6,100人 外国人宿泊者数: 30人	△ 混乱防止の伝報 △ 避難所を開設・運営 ● 自宅に留まっていた住民が断水のため避難所に移動	● 断水解消に伴い自宅へ △ 避難所の閉鎖	【1週間後】 * △ 避難所の閉鎖	【1ヶ月後】 *
物資	物資(備蓄品)必要量 食料:＊ 飲料水:200リットル 毛布:＊	● 公共交通機関が停止、帰宅困難者が発生 △ 一時避難場所、一時滞在施設で帰宅困難者を収容 △ 公共交通機関等の運行状況の情報収集 △ 代替輸送調整	△ 物資の搬送体制を整備 △ 物資・集積船送迎拠点の開設	△ 備蓄している飲食料や生活必需品を不足市町村に供給	
災害廃棄物	災害廃棄物発生量: 5,300t	△ 災害廃棄物の仮置き場の設置準備	△ 災害廃棄物の仮置き場を設置し、運営を開始 △ 災害廃棄物の収集運搬 △ 家庭ごみ・避難所ごみの収集運搬 △ 处理方法の検討	△ 災害廃棄物の受入 △ 被災市町村からの災害廃棄物の受入	
消防	—	△ 住民が初期消火を実施 △ 消防局・消防団による消火活動			
災害応急体制	救出 救援活動	● 道路閉塞による救出・救援活動の影響	● 燃料不足による救出・救援活動の影響 △ 救護品等を搬入、搬送 △ 被災市町村からの傷病者の受入		
医療関連 (医療機関)	—				

※被害数量の「＊」は、端数処理した以下の値で、0ではないことを示します。

● : 被害の様相

△ : 府の対応

◇ : 市町村等関係機関の対応

表 3.5-7 山田断層帯における中丹広域振興局地域のシナリオ (1/2)

【中丹広域振興局地域】冬、夕方(18時)		災害直後～災害拡大期		災害沈静期		復旧期	
被害項目	被害想定						
災害	● 由良川等河川等による生息地や堤防等の被害 ● 管内東部の山地部を中心とした火災発生 ● 樹木の大規模な倒壊、倒木等による斜面災害等の拡大 ● 堤防等河川構造物の被災に伴う浸水被害 ● 大雨時に堤防等被災箇所から源水被害が発生 ● 山地部にできた土砂ダムが降雨により決壊						
建物	全県：1,100棟 半県：7,000棟	● 既耐震基準の大造建物を中心とした被害が発生 ● 斜面崩壊による生息地損壊、周辺に土砂堆積 ● 余震による倒壊等の被害拡大	● 建物の応急危険度判定を開始 ▷ 被災仮設住宅の供給体制の整備	▷ 被災者生活再建支援法の適用	▷ 被災明発行に伴う建物被害認定調査を実施 ▷ 倒壊建物等の撤去（民間協力要請、撤去費支拂）	▷ 被災建物の撤去、再建が本格化	
火災	件数種類数：20種	● 火気・電気機器等からの火・延焼 ● 強風時、飛び火等により延焼が広域化する恐れ	● 電気の夏の祭、破損した電気機器等による通電火災に注意				
人的	死者：30人 負傷者：300人 要救助者：80人	● 運転倒壊、火災により死者、要救助者が発生 ● 屋内落倒物、未固定家具の倒壊、ガラス飛散、バックルによる転倒等による負傷者が発生 ● 余震に伴う負傷者の増加	● 入院患者や避難者の震災関連死が発生 ▷ 死者一行方不明者の捜索、遺体の身元確認 ▷ 遺体の安置・保存、埋葬体制の構築 ▷ 安否不明者の氏名等公表	● 死者一行方不明者の捜索、遺体の身元確認 ▷ 遺体安置所の開設	● 撃ね電力が回復		
電力	停電率(停電率)： 【被災直後】 200軒(0.1%)	● 管路等の被害による断水が発生 ▷ 施設の被害状況を把握 ▷ 市町村の瓦礫搬きき作業 ▷ 断水や車両調整 ▷ 応急給水に係る支援要請・調整	【1日後】 40軒(0.0%)	● 断水継続 【4日後】 * (0%)	● 断水を受けた管路の復旧が完了し、管路被害原因とする断水は概ね解消	● 管路の復旧が進歩した地域から、段階的に断水が解消 ▷ 断水状況に応じて応急給水活動を継続	
上水道	断水人口(断水率)： 【被災直後】 45,000人(23.8%)	● 管路等の被災により、下水道の利用に支障が発生 ▷ 下水使用制限の広報	【1日後】 25,000人(13.2%)	● 優先度の高い場所から応急給水活動を開始 【4日後】 * (0%)	● 優先度の高い場所から応急給水活動を開始 ▷ 断水状況に応じて応急給水活動を継続	【1週間後】 11,000人(5.6%)	● 給水が可能に ● 給水が可能に
ライフライン	機能支障人口(機能支障率)： 【被災直後】 5,200人(3.1%)	● 管路等の被災により、下水道の利用に支障が発生 ▷ 流瀬等の応急処置	【1日後】 4,000人(2.4%)	● 下水機能確保のための緊急工事 ▷ 下水使用制限の広報	● 流瀬等の応急処置 ● 携帯電話基地局の停止(停電)による影響が継続	【1ヶ月後】 1,200人(0.7%) 0人(0.0%)	
通信	不通回線数(不通率)： 停波基地局率： 【被災直後】 200回線(0.3%) 0.4%	● 通信設備の被災や福島の発生等に伴い、通信が制限 ● インターネット利用に支障、SNSやメールの運営の可能性	【1日後】 20回線(0.1%)	● 固定、携帯ともに概ね通信状況が回復 ● 携帯電話基地局の停止(停電)による影響が継続	● 固定、携帯ともに概ね通信状況が回復 ● 携帯電話基地局の停止(停電)による影響が継続	【4日後】 * (0%) 0.0%	
都市ガス	供給停止率:0.0%	● 供給継続					

※被害数量の「*」は、端数処理した以下の値で、0ではないことを示します。



表 3.5-8 山田断層帶における中丹広域振興局地域のシナリオ (2/2)

【中丹広域振興局地域】(冬、夕方(18時))		発災直後～災害拡大期		災害沈静期		復旧期	
被害項目	被害想定			～3日後	～1週間後	～1ヶ月後	～3ヶ月後
道路交通(橋梁)	橋梁大被害箇所 新幹線：0 その他：100箇所	● 山間部の土砂災害や落石・電柱の倒壊、車両に起因する道路閉塞等により通行止めが発生、山間部の集落が孤立 ▶ 緊急車両の通行確保等のための交通規制 ▶ 緊急輸送路の被害状況調査 ▶ 緊急輸送路の啓閉(自衛隊・協定組織団体等への要請)	● 道路啓閉が段階的に進行、一部は用を再開	● 主要道路の啓閉が概ね完了	● 橋梁通行機能が回復		
鉄道		● 鉄道は全面的に運行停止	● 鉄道の一部で運行再開	● 鉄道の一部で運行再開	● 鉄道の一部で運行再開	● 鉄道の一部で運行再開	● 鉄道の一部で運行再開
文化財	文化財被壊箇数：1件 文化財焼失件数：0件 避難者数：	● 多数の建造物に被害、軽傷等による美術工芸品被害も発生 △ 損害の消火活動 ▶ 文化財の搬入状況調査 ▶ 体制・設備の整った施設に保管	△ 損傷した文化財の応急措置	△ 損傷した文化財に対する一次被害の防止対策	△ 文化財の修復に向けた検討の開始		
避難所	【被災直後】 1,800人 帰宅困難者数： 13,000人 外国人・但泊者数： 30人	● 避難者が発生 △ 避難誘導、混乱防止の伝報 △ 避難所を開設・運営、仮設トイレの設置 △ 広域避難場所での支援 ● 自宅に留まっていた住民が断水、停電、備蓄枯渇等により避難所に移動	● 大雨の予報に伴い避難者が増加 ● 避難所の衛生環境の悪化、避難所内の感染症拡大に注意 ▶ 仮設トイレの応援・輸送 ▶ ポンプアの市町村間調整	▶ 保健指導、健康相談、メンタルヘルスケア △ 避難生活の長期化対応(健康・食生活・環境・相談体制等) ▶ ポンプアの市町村間調整	● 住居が無事な住民は自己へ ● 住民喪失の避難者は避難所生活	△ 避難所の統括会	
物資	物資(備蓄品)必要量 食料：3,400食 飲料水：45,000リットル 毛布：1,400枚	● 公共交通機関が停止、帰宅困難者が多数発生 △ 駅等で避難誘導 △ 一時避難場所へ搬入 ▶ 公共交通機関等の運航状況の情報提供 ▶ 代替輸送の調整	△ 備蓄している飲食料や生活必需品を提供 △ 物資の測定・点検・整備	△ 協定を締結した民間事業者からの調達物資の配分を開始 △ 他都市等からの支援物資の配分を開始 △ 物資・集積貯蔵場所への搬入	△ 国から支援物資の配分を開始 △ 支援物資の配分	【1ヶ月後】 4,400人	【1ヶ月後】 2,400人
災害廃棄物	災害廃棄物発生量： 289,000トン	△ 物資・集積輸送拠点の開設準備 ▶ 國・協定結団体等へ供給要請 ▶ 備蓄物資の提供 ▶ 緊急物資受入、配分調整 △ 物資配布の広報	△ 災害廃棄物の貯蔵場の設置準備を開始 △ 消防署・消防団による消火活動 △ 家庭ごみ・避難所ごみの収集・運搬 △ 市町村間調整、区域的な支援要請	△ 災害廃棄物の収集・運搬 △ 災害廃棄物の処理を行う際の災害廃棄物の輸送体制の確立、処分先の確保	△ 住民用仮設場を順次開設		
災害応急体制	消防 救出 救護活動	△ 住民初期消火を実施 ● 消防署・消防団による消火活動 ▶ 消防署・消防団の被災による消防力の不足 △ 緊急消防援助隊の手動調査 △ 緊急消防援助隊が来援、消火活動を開始	● 商業施設CTIレベルへ閉じ込め △ 生存者の確認、救出 ▶ 國及び隣接府県、協定結団体等に対する応援要請 ▶ 被害状況、交通規制、隔離避難所等の情報 ▶ 医療機関の搬入、医薬品等の確保 ▶ DMAI派遣要請 △ 応援救護班が来援、救援活動を展開 △ 応援救護班が来援、救援活動を展開	● 電力・燃料不足による救出・救護活動の影響	● 振舞の様相	● 振舞の様相	● 振舞の様相
医療関連(医療・医師)	—					△ 市町村等関係機関の対応	

※被害数量の「*」は、端数処理した折以下の値で、ではないことを示します。

表 3.5-9 山田断層帯における丹後広域振興局地域のシナリオ (1/2)

被災項目		被害想定	発災直後～災害拡大期	災害沈静期	～3日後	～1週間後	復旧期	～3ヶ月後
災害	最大震度: 7	● 金構: 36,000棟 半壊: 25,000棟	● 川沿いの低平地を中心にして焼失が発生 ● 山地部で斜面災害等 ● 災害の大きさ: 余震に伴う斜面災害等の拡大 ● 堤防等河川構造物の被災に伴う浸水被害 ● 大雨時には堤防等被災箇所から浸水被害が発生 ● 山地部にできた土砂ダムが降雨により決壊					
建物		● 旧耐震基準の木造建物を中心とした被災が発生 ● 清掃化による煙突等、住居に土砂堆積 ● 斜面崩壊による住居の損壊、周辺に土砂堆積 ● 余震による倒壊等の被災拡大	▶ 応急危険判定士の派遣	◆ 建物の応急危険判定を開始 ▶ 応急反応センターの快活休憩所の設営	◆ り災証明券発行に伴う建物被害証定調査 ▶ 倒壊建物等の撤去（民間協力要請、撤去費支障）	◆ 公営住宅の斡旋、応急仮設住宅の建設		
火災	犠牲者数: 1,100 横 死傷者数: 1,600 人 負傷者: 3,000 人	● 火災、電気機器等から出火・延焼 ● 強風時、飛び火等により延焼が広域化する恐れ		● 電気の復旧の際、破損した電気機器等による通電火災に注意				
人的		● 建物倒壊、火災による死者、要救助者が発生 ● 屋内落し物、未固定具の掉落、ガラス飛散、パニックによる転倒等による負傷者 ● 余震に伴う負傷者の増加		● 入院患者や避難者の震災関連死が発生 ◆ 疾患不明者の検索、遺体の確認 ◆ 安否不明者の氏名等公表				
電力	停電軒数(停電率): 【被災直後】 5,000軒(7.9%)	● 配電設備等の被災により停電が発生 ● 停電軒数(停電率): 【1日後】 4,000軒(6.5%)	【1日後】 ● 管路等の被害による断水が発生 ▶ 施設の被災状況を把握 ▶ 給水車の配車調整 ▶ 応急給水に係る支援要請、調整	● 断水維持 【1日後】 74,000人(82.1%)	【1週間後】 1,300軒(2.1%) 300軒(0.4%)	● 管路の復旧が進捗した地域から、段階的に貯水槽がまわされ、管路は概ね解消		
上水道	断水人口(断水率): 【被災直後】 87,000人(96.5%)	● 管路等の被災により下水道の把握が発生 ● 施設の被災状況を把握 ● 下水使用制限の広報	【1日後】 9,000人(13.5%)	◆ 断水状況に応じて応急給水活動を継続 ◆ 優先度の高い場所から応急給水活動を開始	【1週間後】 59,000人(65.3%)	● 断水状況に応じて応急給水活動を継続 ◆ 優先度の高い場所から応急給水活動を開始		
ライフルライン	機能支障人口: 【被災直後】 9,200人(13.5%)	● 管路等の被災により下水道の把握が発生 ● 施設の被災状況を把握 ● 清掃車の配車調整 ● 清掃等の応急処置	【1日後】 4,400回線(9.7%) 15.5%	◆ 流下機能確保のための緊急工事 ◆ 下水使用制限の広報	【1週間後】 7,600人(11.3%)	● 流下機能確保のための緊急工事 ● 清掃車の配車調整 ● 清掃等の応急処置		
通信	不通回線数(不通率): 停波基地局率: 【被災直後】 7,100回線(15.2%) 21.9%	● 通信設備の被災や離島の発生等により、電話・通信が制限 ● インターネット利用に支障、SNSやメールの運営の可能性	【1日後】 1,000回線(2.1%) 4.1%	● 段階的の通信状況が回復 ● 携帯電話基地局の停止(停電)により影響が緩和	【1週間後】 200回線(0.4%) 0.8%	● 固定、携帯ともに概ね通信状況が回復		
都市ガス	供給停止率: 0.0%	● 供給維持						

● : 被害の様相
▲ : 他の村
△ : 市町村等関係機関の対応

表 3.5-10 山田断層帶における丹後広域振興局地域のシナリオ (2/2)

【丹後広域振興局地域】(冬、夕方(18 時))		災害直後～災害拡大期		災害沈静期		復旧期	
被害項目	被害想定			～3 日後	～1 週間後	～ヶ月後	～数ヶ月後
道路交通(橋梁)	● 山間部の土砂災害や落物・雪柱の倒壊、放置車両に起因する道路閉塞等により、通行止めが発生 ○ 桥梁の一部で通行機能障害が発生 ▶ 路上車両の通行規制 ▶ 緊急輸送路の被害状況調査 ▶ 緊急輸送路の啓閉(自衛隊、協定組織団体等への要請)		● 道路啓閉が段階的に進行、一部供用を再開	● 高速道路や燃え木は反復日が進行、一部供用を再開		● 主要道路の啓閉が懸念される完了	● 機械化機能が回復
鉄道	● 鉄道は全面的に運行停止 ● 損害の大きい地域では機関車や客車の脱線等が発生 ● 鉄道各社による点検、応急復旧作業						
文化財	新幹線 0 箇所 その他: 200 箇所 文化財被害数: 41 件 文化財消失失数: 0 件	● 多数の建物に被害 ▶ 建物等による美術工芸品被害も発生 ● 地域の消火活動 ▶ 文化財の被害状況調査 ▶ 体制・設備整った施設に保管	◇ 表示・損傷した文化財の応急措置	◇ 倒壊・損傷した文化財建造物に対する二次被害の防止対策	◇ 文化財の修復に向けた検討の開始	● 居住が無事な住民は自宅へ	◇ 文化財の修復に向けた検討の開始
避難者数	● 避難者が発生 ○ 避難所に搬入者、混乱が発生 ▶ 避難所を開設、運営、仮設トイレの設置 ◇ 広域避難場所での支援	● 大雨の予報に伴い避難者が増加 ○ 避難所の衛生環境の悪化、避難所内の感染症拡大に注意 ▶ 仮設トイレの応援・駆除 ▶ ホテルアコムの市町村間調整 ● 自宅に留まっていた住民が断水、停電、備蓄耗減等により避難所に移動	● 避難所の衛生環境の悪化、避難所内の感染症拡大に注意 ▶ 仮設トイレの応援・駆除 ● 住居喪失の避難者は避難所生活	● 生居が無事な住民は自宅へ	● 住居喪失の避難者は避難所生活	● 住居が無事な住民は自宅へ	● 住居喪失の避難者は避難所生活
避難所	【被災直後】 32,000 人 帰宅困難者数: 15,000 人 外国人宿泊者数: 200 人	● 公共交通機関が停止、帰宅困難者が多数発生 ○ 駅等で避難誘導 ▶ 一時滞在施設で帰宅困難者を受入れ ● 公共交通機関の運航状況の情報提供	◇ 備蓄している飲食料や生活必需品を提供 ○ 物資の調達体制を整備 ▶ 物資・薬類販売店との連携 ▶ 国・協定輸送団体等へ供給要請 ▶ 備蓄物資の提供 ▶ 緊急物資受入、配分調整	◇ 調定を締結した民間事業者からの調達物資の配分を開始 ○ 世帯市等からの支援物資の配分と開始 ◇ 物資・薬類輸送拠点の開設・運営	◇ 国から支援物資の配分を開始	【1 週間後】 47,000 人 45,000 人	【1 週間後】 45,000 人
物資	災害備蓄品必要量 食料: 63,000 食 飲料水: 87,000 リットル 毛布: 26,000 枚	● 災害備蓄品の貯蔵庫の設置準備を実施 ○ 物資配布の広報	◇ 備蓄している飲食料や生活必需品を提供 ○ 物資・薬類販売店との連携 ▶ 国・協定輸送団体等へ供給要請 ▶ 備蓄物資の提供 ▶ 緊急物資受入、配分調整	◇ 従事者・業務者の貯蔵場を設置し、運営を開始 ○ 災害医療物の収集・運搬・処理の開始 ▶ 市町村間調整、伝統的な支援要請	◇ 住民用仮設場所の面積の確保 ○ 広域連携処理を行際の災害医療物の輸送体制の確立、処分先の確保		
災害廃棄物	災害廃棄物発生量: 4,881,000 トン	● 住民が初期消火を実施 ○ 消防署・消防防災による消防活動	● 消防署・消防防災による消防活動	● 消防署・消防防災による消防活動	● 消防署・消防防災による消防活動		
消防	—	● 消防署・消防防災による消防活動	● 消防署・消防防災による消防活動	● 消防署・消防防災による消防活動	● 消防署・消防防災による消防活動		
災害応急体制	救出救護活動	● 道路開塞による救出・救護活動の影響 ○ 商業施設で119番による救出・救護活動の影響	● 消防署・消防防災による消防活動	● 消防署・消防防災による消防活動	● 消防署・消防防災による消防活動		
医療機関	(医療機関) —	● 生存者の搜索・救出 ○ 國及び隣接府県、協定施設機関に対する応援要請 ▶ 护衛状況、交通規制、開設避難所等の広報 ▶ 医療救援班の編成、医薬品等の確保 ▶ DMAI の派遣要請 ○ 応援救護班が来院、救護活動を展開	● 電力・燃料不足による救出・救護活動の影響 ○ 医薬品等を調達・搬送 ○ 応援救護班が来院、救護活動を展開	● 医薬品等を調達・搬送 ○ 応援救護班が来院、救護活動を展開	● 救護所の設置支援、救護班の派遣	● 救護所の様相 ○ 市町村等開設機関の対応	● 救護所の設置支援、救護班の派遣